

◇被表彰グループ・被表彰者◇

【学長表彰】

被表彰者(団体)	団体	人数	所属・職名等	表彰の理由
神戸大学 アトラス・グループ 代表: 藏重 久弥	○	3	理学研究科 教授 ほか2名の教員	<p>藏重久弥教授を中心とする神戸大学アトラス・グループは、スイス・ジュネーブCERN研究所にある陽子・陽子衝突型加速器LHC加速器におけるアトラス実験の一員として長年にわたって貢献し、昨年7月、その実験において、およそ30年にわたり探し続けられてきたヒッグス粒子と思われる新粒子の発見を報告した。</p> <p>同グループは、アトラス実験建設時に、TGC検出器の検査・設置、測定用電子回路の設計・製作に関わり、実験開始後もTGC検出器を用いたトリガー・システムの運用及び種々のデータ解析によって、今回のヒッグス粒子発見に大きく貢献するとともに世界最先端の大規模国際共同実験という研究環境において、院生の教育にも精力的に取り組み、最近5年間でも英国からの留学生を含む5名の課程博士を送り出している。</p> <p>また、神戸大学で行われている研究内容は、神戸新聞等で取り上げられている。さらに、一般市民を対象とした講演会やブラスセル日本人学校の体験教室を開催するなど、素粒子物理学と本学での成果を広く報せる活動にも取り組んできた。</p> <p>以上のように、同グループの一連の活動は、本学の学術的及び社会的評価を著しく高めたものである。</p>
石井 尊生			農学研究科教授 (農学研究科 附属食資源教育 研究センター長)	<p>石井尊生教授は、イネの遺伝育種学的研究に取り組み、野生イネにおける自生集団の遺伝的多様性の解明からイネの栽培化過程の解明、イネの栽培化に関与した遺伝子の同定などの研究成果をもとに、栽培イネ誕生のきっかけとなった遺伝子を特定し、その研究内容を遺伝学を志す者なら誰もが憧れる著名な雑誌であるNature Genetics誌の本年4月号に公表した。</p> <p>同教授は、イネの栽培化の過程を解明するにあたって、これまで誰も考えたことのない「穂の形と栽培化」に着目して独自の発想を展開し、植物材料の育成と研究手法の開発を通して、長年にわたって研究を進め、栽培イネ誕生の引き金となった遺伝子の同定に成功している。農作物の栽培化に関する研究は、人々の関心が高いため、この研究成果の公表は直ちに新聞報道されるとともに、著名な科学雑誌Developmental Cell誌など多数の雑誌の特集記事としても取り上げられ、極めて高い評価を受けている。</p> <p>以上のように同教授の一連の活動は、本学の学術的及び社会的評価を著しく高めたものである。</p>
陰山 聡			システム情報学 研究科 教授	<p>陰山 聡教授は、地磁気の計算機シミュレーション研究に関する成果により、平成22年度文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞した。そして、その研究を推進するために独自に開発した球での数値計算に適した「インヤン格子」という新たな計算格子の考案や計算結果を可視化・解析するためバーチャルリアリティ(VR)技術を利用した研究手法が地磁気研究だけでなく、広い分野に活用されつつある。</p> <p>インヤン格子は、スーパーコンピュータを用いた大規模な計算機シミュレーションに特に適しているため、ここ数年、マントル対流、大気海洋大循環モデル、超新星爆発など、様々な分野でこの格子を用いた研究成果が数多く発表されている。</p> <p>バーチャルリアリティ技術の応用の成果は、本学統合研究拠点に導入された日本最大の没入型VR装置「π-CAVE」で活かされ、分子から地震まで、様々なスケールでのシミュレーションデータの可視化に活用され、特に同教授がπ-CAVE装置のために新たに開発した可視化プログラム「Multiverse」は、研究だけでなく、π-CAVE装置の訪問者に見せるためのデモコンテンツとしても活用されている。</p> <p>以上のように同教授の一連の活動は、計算機関係の分野に広く活用され、本学の学術的評価を著しく高めたものである。</p>
津田 明彦			理学研究科 准教授	<p>津田明彦准教授は、「音と光に応答するインテリジェントナノマテリアルの創成」という極めて独創的かつ一般性の高い研究課題に取り組んでおり、可聴音で整列する超分子ナノファイバーの開発に成功し、その研究成果が2010年Nature Chemistryに掲載された。本成果を始まりとして、同准教授はさらなる挑戦的な発展研究に取り組む、現在では、音楽の音(メロディー)にあわせて整列するナノファイバーの開発などにも成功しており、これからさらなる大きな飛躍を遂げようとしている。</p> <p>また、同研究室では、「音を認識する分子を創ることができる世界で唯一の研究室」として極めてハイレベルな教育研究活動が行われている。</p> <p>同准教授の研究業績は極めて独創的であり、世界的評価が高く、これまでに数々の賞が授与され、神戸大学から生まれた極めてユニークな研究として、新聞などの複数のメディアを通して大きく報じられた。</p> <p>以上のように同教授の一連の活動は、本学の学術的及び社会的評価を著しく高めたものである。</p>

※被表彰順については、団体、個人の順とし、それぞれ五十音順とした。

【特別賞】

被表彰者(団体)	団体	人数	所属・職名等	表彰の理由
研究力向上支援プロジェクトチーム 代表者:松井一澄	○	15	研究推進部 研究推進部次長 ほか14名の職員	<p>本年5月、文部科学省は、我が国の国際競争力向上のため、大学の研究力の強化を図っていくことを目的として、一定の指標及び審査により特定の大学等を選定し研究力強化の取組みを支援・促進するとして「研究大学強化促進事業」の募集を行った。これにより、研究推進課では、学長、理事の指導の下、「研究力向上支援プロジェクトチーム」を編成し、提出期限の(6月27日)までの短期間で本学の研究活動状況の調査・分析を行い、研究力強化の実現構想を取りまとめ、提出するとともに直後からヒアリング審査(7月25日)対策を行い、学長が力強いプレゼンテーションを行った結果、支援対象機関として選定された。</p> <p>以上のように、「研究大学強化促進事業」の申請にあたり、実現構想の作成に同チームが中心的な役割を果たし、本学を支援対象機関へと導いたことは、本学の社会的評価を高めたものである。</p>
他大学との共同調達プロジェクトチーム 代表者:畑 基	○	6	財務部契約課長 ほか5名の職員	<p>財務部契約課では、「卓越した大学経営の実現」及びコスト低減に有効な調達戦略として掲げられる「他機関との共同調達」を実現するため、「他大学との共同調達プロジェクトチーム」を立ち上げた。</p> <p>共同調達品目は、複数機関でも仕様の統一が可能な「PPC用紙」と「トイレトペーパー」を選定し、共同調達を実施する他機関としては、共同調達品目の取扱業者に配送可能範囲等の聞き取り調査を実施した結果、神戸市近郊地域での実施が最も削減効果が高いとの結論により、神戸市近郊の公立・私立大学4大学を選定した。</p> <p>これら4大学の担当者に、神戸大学を含めた5大学で共同調達を行うことによるスケールメリット及び事務の効率化について、提案・協議を続けた結果、平成25年3月に神戸大学を幹事大学(リージョナルセンター役)とする、国・公・私立大学5大学間における共同調達に関する協定の締結及び共同調達(一括競争契約)の実施に至った。これは全国でも初の試みであり、全国にも広く広報された。</p> <p>この共同調達により神戸大学は約5,000千円のコストを削減し、「神戸大学ビジョン2015」に掲げる“卓越した大学経営”の実現に寄与した。</p>
レスキューロボットコンテスト 出場チーム「六甲おろし」 支援職員グループ 代表者:福井 喜一郎	○	3	工学研究科 技術職員 ほか2名の職員	<p>福井喜一郎技術職員を代表とするレスキューロボットコンテスト出場チーム「六甲おろし」支援職員グループは、2004年からレスキューロボットコンテスト(以下「レスコン」という。)の出場チームを支援し続けている。特筆すべきは、2008年のレスコンにおいて、支援していた学生チームが総合優勝し、本学において学生表彰を受賞した。また、2011年のレスコンにおいては、総合評価ポイント第1位を獲得し、翌年の2012年レスコンにおいては、総合評価ポイント第2位を獲得し、そのコンセプトが評価され「消防庁長官賞」を受賞し、本学において学生表彰を受賞した。</p> <p>さらに、同グループは、2008年以降、神戸市立長尾小学校で全校生徒を対象とした防災授業、須磨パティオホールにおけるイベント、神戸市産業振興局主催「こうべロボット夢工房inフルーツフラワーパーク」及び第二回灘区総合芸術祭等でレスキューロボットのデモンストラーションと操縦体験を実施して地域や社会に貢献している。</p> <p>以上のように、同グループの一連の活動は、学生教育及び社会貢献の面で本学の評価を高めたものである。</p>

※被表彰順については、団体、個人の順とし、それぞれ五十音順とした。